



喜多の埜

うめきた

いよいよ今月二十六日。旧梅田貨物駅・国鉄跡地の第一期再開発である、うめきたの街がまちびらきします。

うめきたの中核を担う、グランフロント大阪の延べ床面積は実に五五六七〇〇平方メートル(二六八四〇二坪)であり、バチカン市国よりも広い空間が、この梅田に生まれたという事になります。

一期、二期を含めこれほどの規模の開発は、梅田の歴史の中でも稀に見るもので、当宮の歴史を紐解いてみても、室町時代の梅田の干拓埋田、徳川大阪城築城による市街整備(西寺町の構築)、明治七年の大阪駅の出現、明治末から大正にかけての阪急の開発、戦後の再開発に次ぐ規模ではないかと思うところです。

このうめきたの中でも、特に注目されているのが、産官学による知的創造拠点と銘打つナレッジキャピタルで、二十六日の開業から九月一日まで「THE 世界一展」が開催され、世界で一つの技、人をテーマに様々な展示やステージを通して、梅田から未来へのプロジェクトにつながる貴重な資料なども展示されるとの事です。

また先月、うめきたの歩道橋の命名権を落札した事で話題になった、大阪の地元企業、ルート製菓さんが展開される、薬膳をテーマにしたフレンチレストラン「旬穀旬菜」や、近畿大学が開発した完全養殖マグロ「近大マグロ」を味わえるお店など、食においても新しい試みが見られ、この春はうめきたの街が賑わいの中心になりそうです。

出雲大社 本殿遷座祭

大国主大神さまをお祀りする、鳥根県の出雲大社では、六十年ぶりとなる本殿の大修理が行われ、来月十日に、それまで仮殿にお遷りになられていた大国主大神さまの御神霊を、元の御社殿にお遷しする、本殿遷座祭が斎行されます。出雲大社は古事記・日本書紀にも登場する、日本最古級のお社の一つで、かつては高さ十六丈(四八丈)もの巨大な社殿を構える、まさに日本国を代表するお社の一つとして、現代においてもその巨大な御本殿は我々に御神威の大きさを感じさせてくれるお社です。

実は、当宮御本社にも戦前まで大国主大神さま大黒天をお祀りする小祠があり、江戸時代には大黒天さまのお姿を描いた縁起物を授与していたそう、開運招福を願う人々が遠近から求めに参られていたそうですが、戦災で焼けてからは、現在の御本殿に合祀という形となり、今は静かにお祀りされております。

大国主大神さまは、文字通り国土の神さまであり、総本社である出雲大社の社殿がきれいにあった事で、きつとその御力も甦り、当宮を通して、これからの梅田の土地もお見守り下さる事でしょう。また十月には日本の総氏神さまである、伊勢の神宮も式年遷宮を迎え、今年には日本の神々の御稜威を近くに感じられる年となりそうです。

大神社展

今年、伊勢の神宮、出雲大社という日本を代表するお社が同様に遷宮を迎える奉祝すべき年という事で、全国神社が協力して、東京と福岡で「国宝 大神社展」が催されます。関西からは少し遠いですが、東京・福岡にお出ましの際は是非ともお足をお運び下さい。

・平成二十五年四月九日～六月二日

東京国立博物館

・平成二十六年一月十五日～三月九日

九州国立博物館

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、
au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀 知

